

厚生労働科学研究費補助金（肝炎等克服緊急対策研究事業）
分担研究報告書

都市部(神奈川県)での肝炎医療コーディネーター養成と、コーディネーターによる
両立支援

研究分担者 古屋 博行 東海大学医学部基盤診療学系衛生学公衆衛生学

研究要旨

【背景】これまで首都圏（主に神奈川県）において職域の産業保健スタッフを対象としてウイルス性肝炎検査、ウイルス性肝炎治療の研修会を県と共同で実施して来た。一方、仕事と治療の両立支援に向けた体制作りも進んでいる。両立支援から職域の肝疾患対策についての検討も望まれる。【方法】神奈川県では、今年度1月から調剤薬局薬剤師を対象として肝炎医療コーディネーター養成が本格的に開始されたことから、研修会参加者にこれまでの相談状況を調査した。【結果】65名の参加者に対し、肝炎医療コーディネーター向け両立支援マニュアルと葉書アンケートを配布、25名から回答があった。回答者の中で36%にウイルス肝炎患者から問い合わせがあったと回答があった。また、神奈川県での地域両立支援推進チームの形成過程で、肝炎医療の包括に向けチームの関係者と検討を行った。

【結語】都市部における肝炎医療コーディネーターとして、調剤薬局の薬剤師は直接患者さんとの接点が多いことから、治療薬について患者さんのアドヒアランスを高めるばかりでなく、両立支援や肝炎ウイルスに関する知識の啓発の点で貢献が期待できる。

A．研究目的

これまで、都市部での肝炎医療コーディネーター養成の一貫として、職域をターゲットとして産業保健スタッフを対象に研修会を行って来た。肝炎ウイルスの治療薬の進歩は早く、患者さんからのより最新で専門的な治療に関する相談にも対応できるよう、神奈川県では薬剤師を対象として肝炎医療コーディネーターの養成を本格的に開始した。このことから、研修会に参加の調剤薬局の薬剤師に対してウイルス性肝炎患者からの相談状況を調査した。

一方、治療と仕事の両立支援について、国から地域両立支援推進チームの設置の通知を受け、神奈川県では神奈川産業保健総合支援センターを中心に県下の4医学系大

学病院との連携による両立支援モデルを構築した。疾患包括的な枠組み中での肝炎対策も考えられる。

B．研究方法

(i)神奈川県では、今年度1月から調剤薬局薬剤師を対象として肝炎医療コーディネーター養成研修会参加者にアンケートを実施。研修会の講演内容を図1に占めず。

(ii)神奈川県における地域両立支援推進チームの一貫として、神奈川両立支援モデル（図2）を形成していく中で、特に肝がん、肝硬変患者さんへの両立支援について意見交換を行った。

C. 研究結果

(i) 65名の参加者に対し、肝炎医療コーディネーター向け両立支援マニュアルと葉書アンケートを配布、25名から回答があった。回答者の中で36%に、これまでウイルス肝炎患者から問い合わせがあったと答えていた。以下、回答者に対して、薬剤師が対応する上で役に立った知識としては、公費助成に関する知識についてが24%、病気についての知識が20%であった。また、相談の機会としては薬剤指導時が24%、患者さんからの相談時が20%であった。相談内容としては、治療内容と、経済的問題がそれぞれ24%を占めていた。

肝炎に限らないで、仕事と治療の両立支援について問い合わせがあったかという質問に対して、24%で相談があり、疾患としては糖尿病、難病に関してであった。

渡辺班が作成した「治療と仕事の両立支援のための肝炎医療コーディネーターマニュアル」については、患者さんとの相談で役立つとの意見が多かった。理由、意見として「肝炎検査未受検のため感染に気付いていない人の多いことに気づかされ、検査を受けるようすすめたい。」、「仕事の休みを利用して受診する方の共通の悩みへの回答が記されている。」、「これから肝炎の患者様が増えていった時対応できるため。」、「患者への対応においてかなり高いレベルでの相談に対応することができる。」があった。

(ii) 神奈川県での両立支援推進チームは、「事業場における治療と職業生活の両立支援対策神奈川県推進連絡会議(神奈川県両立支援推進チーム)」協議会を中心に活動を進めることになった。神奈川県(保健福祉局 保健医療部 がん・疾病対策課 がん・肝炎対策グループ)、横浜市(医療局 疾病対策部 がん・疾病対策課)、高齢・障害・求職者雇用支援機構神奈川支部 神奈川障害

者職業センター、労働者健康安全機構 関東労災病院(治療就労両立支援センター)/ 神奈川産業保健総合支援センター、神奈川県労働局(職業安定部 職業安定課、横浜公共職業安定所、相模原公共職業安定所)、神奈川県労働局(労働基準部 健康課、雇用環境・均等部 指導課)等、事業場における治療と職業生活の両立支援対策の取組を既に進めている機関を中心に構成される。さらに、神奈川県産業保健総合支援センターを中心に県下の4医学系大学病院との連携による両立支援モデルを構築した(図2)。

() 職域の産業保健スタッフ向け研修会の開催

神奈川県産業保健総合支援センター、東海大学肝疾患医療センターとの共催で「職域における肝疾患対策につながる仕事と治療の両立支援研修会を開催(図3)。5年生存後の肝がん患者さんの予後は、他のがんに比べ悪く、複数回の治療が必要なことから仕事と治療の両立支援が必要との意見があった。

神奈川県 肝疾患コーディネーターセミナー (薬局コース)

「肝炎」と言えば、日頃の業務の中でも公費として取り扱っている方も多いのではないのでしょうか。
「肝疾患コーディネーター」という日常業務に役立ち、肝炎対策にも貢献できる制度があるんです。

本セミナー受講後の認定試験用紙をご提出いただいた場合は、**神奈川県薬剤師会生涯学習認定制度1.5単位**を取得できます。
また、認定試験に合格された方は、肝疾患コーディネーター認定証をお送りします。

セミナー内容

- ・肝炎全般に関する講演
- ・薬剤員による助成金制度等の講演
- ・質疑応答

日程 2018年1月27日(土) 18:00~21:00

定員 60名

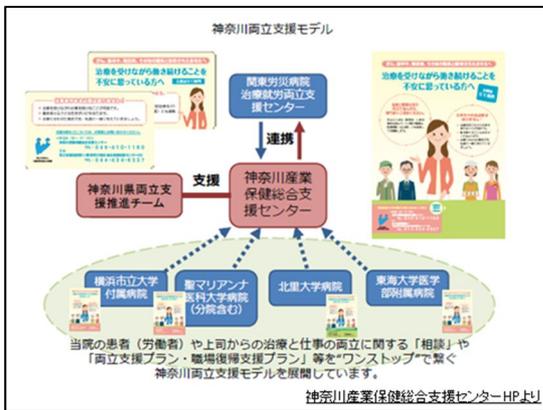
会場 地球市民かながわプラザ会議室 (JPL本館5階より徒歩5分)

講師 加川 肇弘氏 (東海大学医学部付属病院 消化器内科教授)

丹羽 しおり氏 (慶応義塾大学病院薬師)

申込み・お問い合わせ：神奈川県がん・疾病対策課

(図1)



(図 2)

(図 3)

D. 考察

都市部での調剤薬局数は多く、調剤薬局薬剤師を肝炎医療コーディネーターとすることは、重要と考えられた。今回、神奈川県薬剤師会との共催であったが、生涯学習の認定制度単位として認められたことで、県全域から参加者があった。このことから政令市だけでなく市町村の多い県西部への肝炎対策につながることを期待される。

一方、治療と仕事の両立支援については、県内の新たな関連機関との連携体制が出来、肝がんを含む治療と仕事の両立支援の取組の進展と、4 医学系大学病院の肝炎患連携拠点病院の連携の発展につながることを期待された。

E. 結論

都市部での肝炎医療コーディネーターとして調剤薬局薬剤師は、専門知識があり、

また、患者さんと直接接する機会が多いことから、ウイルス性肝炎患者の治療に関する相談だけでなく、公的助成や治療と仕事の両立支援の窓口になりえることが考えられた。

F. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

1. 古屋博行、立道昌幸、渡辺 哲、職域に向けた肝炎対策活動と両立支援相談の取り組みについて 肝炎患診療連携拠点病院での取組を中心に

第 65 回日本職業・災害医学会学術大会、北九州

G. 知的所有権の取得状況

なし

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

